

令和元年度 宮城県ストップ温暖化賞 受賞者一覧

1 宮城県ストップ温暖化大賞 (1 件)

(敬称略)

受賞者 「取組タイトル」	概要
<p>一般社団法人日本キリバス協会 代表理事 ケンタロ・オノ</p> <p>「地球温暖化最前線国キリバス共和国をテーマとした地球温暖化防止啓発活動」</p>	<p>地球温暖化の影響により水没の危機にあるキリバス共和国で起きている被害をテーマとした環境教育などの普及啓発活動により、地球温暖化対策の必要性についての啓発に取り組んでいる。</p> <p>ケンタロ・オノ氏は、宮城県仙台市出身でキリバス共和国に帰化した史上初の日系人1世であり、2018年まで在日本キリバス共和国名誉領事・大使顧問を務め、現在は一般社団法人日本キリバス協会を設立、代表理事に就任している。</p>

2 宮城県ストップ温暖化賞 (4 件)

受賞者名 「取組タイトル」	概要
<p>農業生産法人 株式会社ベジ・ドリーム栗原</p> <p>「余剰熱の再利用など環境配慮型の日本最大規模パプリカ農場運営によるCO2削減」</p>	<p>栗原、大衡地域の合計6haの農場でパプリカを栽培。各種センサーが観測する温度や湿度等を基準に空調などを複合的に一括制御するシステムでエネルギーを効率的に使用している。</p> <p>大衡農場では、隣接する自動車工場敷地内に設置されたコージェネシステムから発生する排熱を再利用した温水を栽培室内の暖房に使用することで省エネ効果を生んでいる。</p>
<p>白石蔵王エコフォーラム</p> <p>「環境出前講座教育等の地球温暖化防止普及活動」</p>	<p>当該団体は、平成12年に地域のISO14001取得企業7社が環境面での相互協力と地域社会貢献を目的として自主的に設立。これをきっかけに、現在では、県内に17か所のエコフォーラムが誕生。全体で約100社の企業が参加する活動へと広がっている。</p> <p>情報共有された省エネ手法等は、担当者の知識習得や人材育成に活かされているほか、可能な限り各社で取り入れられ、展開されている。地域の小学校での出前講座や、各種イベント等への参加により普及啓発にも取り組んでいる。</p>
<p>栗原市築館生活学校</p> <p>「地球にやさしい暮らしのすすめ (ごみ減量とリサイクル)」</p>	<p>住みよい町、美しい町づくりを目指し、昭和63年頃から町内の環境美化に取り組みはじめ、リサイクルなどによる地域でのゴミの減量化の取組を現在まで継続している。リサイクルバザー等へ参加し、マイバッグや再生紙の利用を呼びかけているほか、廃油を利用したリサイクル石けんや、生ゴミからつくったリサイクル堆肥によるリサイクル推進の呼びかけを続けている。</p>
<p>特定非営利活動法人 環境エネルギー技術研究所</p> <p>「低炭素社会に向けた環境エネルギー技術に関する普及啓発活動」</p>	<p>当該団体は、東北大学の研究者らを中心に設立された団体であり、環境エネルギー技術に関する①調査研究業務、②普及・啓発事業、③人材育成事業などを行っている。</p> <p>具体的には、東北大学と主催するSFTEEセミナーの開催、TBC夏祭りでの自然エネルギーに関する体験型展示、優れた環境エネルギー技術に関する研究に対し奨励賞等を授与する研究者支援などを行っており、自然エネルギーの普及、地球温暖化の防止、循環型社会や低炭素社会の実現に向けた取組に貢献している。</p>